

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	松本 拓哉	学校名	北九州市立黒崎中学校
教科（科目）・領域	外国語科	対象学年（人数）	2 年 1. 2. 3. 4 組（155 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021 年 12 月（計 4 時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：Unit6 Work Experience (職場体験・日本における外国人就労者の増加と自分たちにできること)				
2. 実践する教科・領域： 外国語科	3. 学習領域			
		1	2	3
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生
	B グローバル社会	相互依存	情報化	
	C 地球的課題	人権	環境	平和
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：				
- 外国人就労者についての理解を深め、英語で自分の意見を書くことができる。 - 外国人就労者に対して、心がけるべきことは何か考えることができる。				
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	- 不定詞の副詞的用法や接続詞の because の構文について正しく理解している。 - 日本における外国人就労者の現状について理解している。		
	②思考力、判断力、表現力等	外国人就労者について、自分の意見を書くことができる。		
	③学びに向かう力	外国人就労者に対して関心をもち、心がけるべきことは何か考えようとする。		

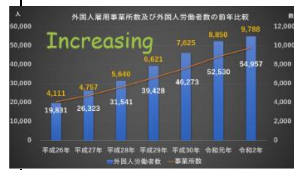
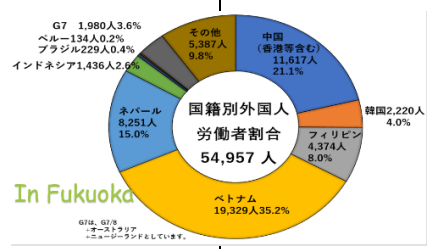
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 近年、日本では外国人就労者の数が増加傾向にある。福岡県においても、2018年から2020年にかけて14%増加し、その数は5万人を超えている。加えて、外国人雇用事業所の数も増え続け、コンビニやスーパー、自動車メーカーなどで見かける機会も増え、生徒たちにとって身近な存在になりつつある。また、本校の近くにはJICA九州や九州国際大学等、外国人と共生している環境があり、日本で働く外国人を好意的に受け入れている様子が見受けられる。 しかし、消費者として外国人就労者と接することと、実際に同じ職場で仕事をするとは全く異なることである。外国人就労者にスーパーでお会計をしてもらう場面では、色眼鏡で見してしまうことも否定できない。今後増え続ける外国人就労者と共に社会を形成していくためには、何が必要になるのか、また、どういう心構えが大切になるのか、など、生徒たちが大人になったときに外国人就労者と会った際の振る舞いや気を付けること等を考えさせたいと思った。 【生徒観】 本学級の生徒は、男子19名女子17名、計36名のクラスである。日頃の授業や行事等にも意欲的に取り組むことができ、しっかりと考えることができる学級である。 1学期の総合の時間での“職業調べ”を通し、自分たちの将来の夢や職業について学習した。その際、国際的な職業に就きたいと考えている生徒も少数いた。この学習を通して、日本でも外国人と働く機会があることや外国で働くことになった際、気を付けるべきこと等を学ぶとともに、生徒たちの職業の幅を広げられることを期待している。 【教材観】 本単元は、小学校への職場体験を通し、先生という職業の大変さを実感した Kota が、クラスでその体験を発表するというストーリーである。本文を聞いたり読んだりして基本的な内容理解を行い、自分が将来挑戦したいことを理由をふまえて表現できることが目標である。 “働くこと”は誰しもが一度は経験するものである。生徒たちは1学期に「職業調べ」を行い、社会には多様な働き場があることを認識している。しかし、日本では多くの外国人が働いていることを知らない生徒も少なからずいる。日本では、コンビニやスーパー等で外国人が働いているのを見受けられるが、それ以外の部分では直接会う機会は少なく、身近に感じられないところもある。今回の学習を通して、「働くこと」だけでなく、「外国人と働くこと」について考えさせることができると考える。 【指導観】 Unitの終わりから外国人就労者について考える時間にする。 最初に、日本や福岡県で働く在留外国人の状況を知る。そして、「外国人就労者が増えている理由」、「外国人就労者が大変なことは何だろうか」など予想を立てさせ、本学習の根幹として、最後に再度考えることができるようにする。 次に、福岡県の現状ではベトナムやフィリピンから来る人が多いので、小グループでフィリピンとベトナムの賃金や労働体系等を調べる。また、比較対象としてフィンランドやアメリカ等、途上国でない国も調べさせる。各国によって違いがあることを理解させる。 そして、日本で働くことは母国で働くことと比較し、労働環境や文化など、どんな違いがあるかを考えさせる。その際、「どちらが良いか」に焦点を当てるのではなく、あくまで「どこが違うか、自分ならどう思うか」等、評価することはさせない。 最後に、最初の授業で予想をした、「外国人就労者が増えている理由」や「外国人就労者が日本で大変なこと」等を再度考える。また、「もし、外国人就労者と一緒に働くことになれば、何が大切になるのか」、「あなたが外国で働くことになった時、どんなことに注意すべきか」を考えさせる。 日本の労働環境と世界の労働環境を比較し、“働くこと”について多角的に捉えさせ、本国において増え続ける外国人就労者が与える影響や共生していくことについて考えさせたい。また、各国の状況や文化的背景を受容することの大切さ、また、生徒たちの職業観を広げる学習にしていきたい。
---	--

7. 単元計画（全 4 時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	・日本に多くの外国人就労者が存在していることを知り、彼らが日本で生活する上で困っていることを考える。 ・英語でのやりとりの中で、外国人就労者が増えていることを理解しようとする。	・クイズ形式で、外国人就労者の写真や国、数を予想し、資料から読み取る。 ・外国人が日本でどんな仕事をしているのかを知る。 ・外国人が、日本で生活するうえで、困っていることについて話し合う。	国籍別外国人就労者割合 外国人就労者数の比較 (厚生労働省) (福岡県労働局)
2.3	・ALT と北九州国際交流協会の方の話を聞き、日本で生活する、仕事をするの大変さを学ぶ。 ・話を聞いたことをまとめ、シンガポールやオーストラリアの労働環境を知り、日本との相違点や類似点を理解しようとする。	・ALT の話を聞き、日本で働くことと海外で働くことの違いを知る。 ・1 時間目に予想した「外国人が日本で生活するうえで、困っていること」を ALT や北九州国際交流協会の方に聞いてみる。 ・「なぜ海外から日本に働きに来るのか」、「日本と海外の働き方の違い」「就労観の違い」等々についての話を聞き、その理由や背景について考える。 ・グループでシンガポールやオーストラリアの労働環境についてまとめる。	・ALT の話 ・北九州国際交流協会の話
4	将来、外国人就労者と共に働く際に大切にすべきことを考え、どのように共生していくべきか思索する。	・外国人就労者のために、あなたが今できることについて話し合う。 ・将来自分が、外国人就労者と働く際に大切なことについてグループで話し合い、全体で共有する。 ・今回の学習を通して学んだことをまとめる。	

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：日本に多くの外国人就労者が存在していることを知り、彼らが日本で生活する上で困っていることを考え、理解しようとする。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1. 「Where are they from?」 ・アメリカ ・韓国 ・フィリピン 等	・身近な人物の写真を見せて、多くの外国人が日本で働いていることを伝える。	・外国人写真
展開 (35分)	2. 「Where are they working?」 ・アメリカ ・韓国 ・フィリピン 等 3. 「Have you ever seen foreign people in Fukuoka?」 ・野球やサッカーチーム ・スーパーやコンビニ ・オリンピック 等 4. 「How many foreign people work in Japan and what kinds of jobs do they have?」 ・数 → 約 1000 人、1 万人以上 等 ・国 → アメリカ、中国、インド 等 ・仕事内容 → 接客、工場 等 ★ In fact, the number of foreign people is increasing Let's think about the trouble for foreign people in Japan	・生徒が意欲的に取り組めるように、クイズ形式にする。	・外国人写真 ・外国人就労者に関するデータ（厚生労働省、福岡県労働局）   In Fukuoka G7は、G2/8、 「オーストラリア」 「ニュージーランド」として入ります。
まとめ (5分)	5. 「Let's think about the trouble for foreign people in Japan」（個人 → 全体共有） ・人からの視線が気になると思う ・肌の色や国籍を気にすると思う ・自分たちの文化が通用しない ・字が読めないことが多い ・会話の内容がわからない 等 6. Please write your reflection	・あくまで予想を立てるので、自由に考えを膨らますよう指示する。 ・次回、外国人就労者の話を聞くことを伝える	・ホワイトボード ・ワークシート

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・日本に多くの外国人就労者が存在していることを知り、彼らが日本で生活する上で困っていることを考え、理解しようとする。（ワークシート・観察）
10. 学習方法および外部との連携 ・ALT と北九州国際交流協会の方に話をしてもらうことにした。日本での仕事観と、ALT の生まれ故郷であるオーストラリアにおける仕事観の違いや、日本で働いてみて驚いたこと等について話をしてもらう予定である。途上国だけでなく、先進国の仕事に対する意識を考えることで、外国人就労者の幅を広げることができる考えた。 ・ALT と北九州国際交流協会の方には、2 人にそれぞれ 1 コマずつ話をしてもらい、生徒は 2 時間の、2 人の話を聞く形を取る。各パートの最後には、質疑応答を行い、気になったことは質問できるようにする。
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・授業後の教室掲示 ・授業実践の報告

【自己評価】

12. 苦労した点	・英語科として“外国人労働者”について考えたので、深い内容まで掘り下げることができるか心配していた。1 コマ目に、“日本に暮らす外国人の方が困っていることについて考え、英語で表現する”ことを目標として実施したが、日本語では言えるが、英語で表現するのに苦労した。日本語を英語に直しやすい日本語にする作業が大変だった。 ・外国人労働者の方の話を伺った際に、“仕事”について話をしてほしいと話をしたが、多文化理解や異文化理解に関する話が中心だったので、その後の流れを作るのが苦労した。また最終的に“外国人労働者”よりかは、“異文化理解”という面が強くなってしまった部分があった。
13. 改善点	・総合的な学習の時間ではなく、英語科として“外国人労働者”について考えたので、内容を掘り下げすぎないこと、生徒に求めすぎないことが必要だと感じた。また、使えるようなキーワードをあらかじめ提示しておくことで、日本語を英語にしやすくなる。 ・ゲストティーチャーがシンガポールとオーストラリアの方だったので、途上国から日本に来ている方の話を聞くことができれば更に学びに繋げることができたと思う。
14. 成果が出た点	・英語で道徳的なことについて考えることは簡単ではないと思うが、生徒が意欲的に文章を作成したり、ペア、グループ活動を行い、英語を話そうとしていたのが印象的だった。英語を勉強することは大切だが、勉強だけでなくツールとして使うことも大切だと思う。それが少しは伝わったのではないかなと思う。 ・コンビニやスーパーで外国人を見かけることが多くなっているので、その背景や理由、自分達に何ができるか、どのように接すればよいかを考えることができた。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	【生徒の振り返り】 他の国のことも知りたかったし、日本のことも分かってないんじゃないかと思ったからしーかり理解していいかな。 「外国人から〜」が日本にやってくる気がするからそこを、と感心していいな。たくさんの人とコミュニケーションをとりたいと思った。 今後日本に外国の方が増えるといいな。みんながどうしていいのかわからない機会にぶつかるのかな。  【What you learned and felt through the class.】 この外国人労働者の人達の授業で、文化の違いや、その違いを認め合っていくことの大切さを学ぶことができました。初めは日本は言語が通いなくて大変なのになんで働きに来るんだろうかと思、ていたけど、なれるのに大変だと思、ていた文化も尊重してきてくれる人もいることが分かりました。色々な人がいる この人の考えはなんでも...とお互いを認め、尊重することが大切だと思った。文化の違い、考え方の違いは外国人だけでなく日本人の中でもあることだと思、うから、「なぜ〜なのだろう?」と相手の考えを文化に興味を持って、自分の考えを少し広げてくれるのだと思、った。つまり多様性とは、相手を尊重することであり、自分と違う人間の幅を少し広げてくれるものでもあるだと思、う。 ・「お互いの価値観を理解し合うことが大切」、「文化を押しつけないことが必要」、「わざわざ日本に働きに来ているのはすごい」等、様々な感想があった。「外国人労働者」についてもう少し話をすれば、深い振り返りになったと思う。
16. 授業者による自由記述	・今回の学習を通して“外国人労働者”について考えるだけでなく、英語を学習する意味や多文化理解という面も伝えようと考えていた。生徒達は、近い将来「外国で」ではなく、「日本で」外国の方と仕事をする場面も増えると思う。その理解の一步になればという思いで本学習を行った。数年後、生徒達が社会人として楽しい生活を送って欲しいと思う。

参考資料：

- ・ 外務省 「キッズ外務省」
- ・ 厚生労働省 「国籍別外国人就労者割合」、「外国人就労者数の比較」
- ・ 福岡県労働局 「外国人就労者数」
- ・ JICA 資料 国際理解教育 実践資料集

Unit 6
Work Experience



★Step1★

Warm-Up

1. Warm-up English⑤
2. Pair talk
3. Bomber Time
4. 30sec challenge



Where do you want to live
in the future?



★Step2★
Word Time

1. 1分間、自分で覚える
2. 2分間、ペアで出し合う

RIGHT part day



KEY WORDS

Japan
Increase
Problem
Foreign people

TODAY'S GOAL

Think about **problems**
for **foreign people** in Japan

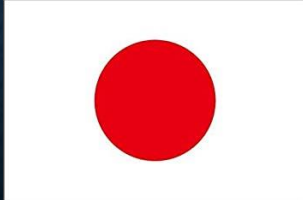
Where are they from?



Where are they working?



They are working in . . .



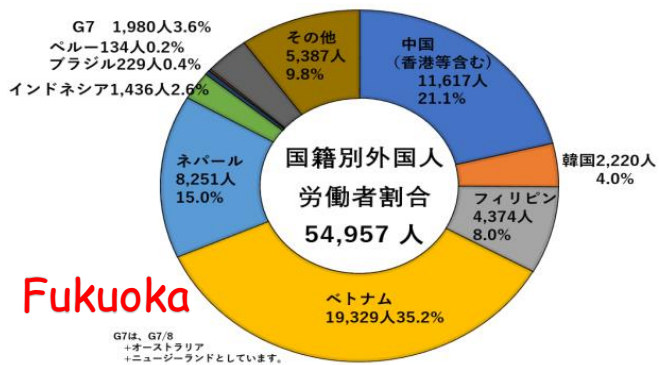
★Step3★

Quiz

1

The country of **foreign workers** in Fukuoka

- | | | |
|----|------------|--|
| 1. | Vietnam | |
| 2. | China | |
| 3. | Nepal | |
| 4. | Philippine | |
| 5. | Korea | |



2

The number of **foreign workers** in Japan

1. About 500000

2. About 1000000

3. About 1700000



The theme is...

Foreign workers in Japan
in this Unit

TODAY'S GOAL

Think about **problems**
for **foreign people** in Japan

Have you ever seen
foreign people in Fukuoka?

Baseball team



Convenience store

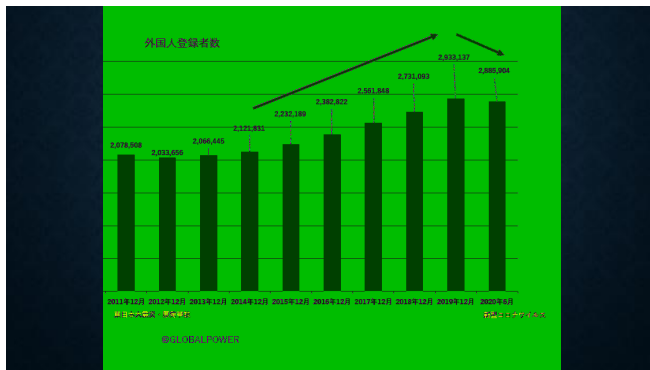


Car shops



School





Actually,
the number of **foreign people**
is **increasing** in Japan

★Step4★ Thinking

So now,
let's think about...

The **problem**
for **foreign people**
in Japan



A: What do you think about the problem
for foreign people?

B: I think ~ because ~. How about you?

A: I think ~ is problem. ~.

Student's opinions

It's difficult to find jobs

It's hard to make friends
because Japanese is hard

Please write
your today's reflection

Next, we will have
a workshop



to be continued...



Theme

Foreign Workers in Japan



International Understanding Worksheet #1

Class() Name()

Theme	Foreign Workers in Japan			
Key word	Japan		increase	
	problem		foreign people	

Today's goal



Problem for foreign people

<u>Your opinions</u>	<u>Friend's opinions</u>
<u>【Japanese】</u>	<u>【Japanese】</u>
<u>【English】</u>	<u>【English】</u>
I think... / because ...	I think ... / because ...



Questions	
-----------	--